

【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

(1)【校長・教頭・事務長】

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 英語科、流通経済科、情報科学科、教育情報科の各専門学科において、大学での専門教育に繋がる指導内容を取り入れる。</p> <p>② 進路保障のための補習体制等の充実、外部講師の積極的活用、資格・検定取得率の向上を図り、進学実績を前年度より向上させる。また、今年度も就職希望者の内定率100%を達成する。</p> <p>③ 新型コロナウィルスの状況にもよるが、海外姉妹校との交流方法を検討し、可能な範囲で継続する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>大学での専門教育に繋がる指導内容を取り入れながら、授業の充実や組織的な補習体制を充実させ、英語科、流通経済科、情報科学科、教育情報科の各専門学科の資格・検定取得率の向上を図る。</p> <p>指標 各検定における取得率の向上 英語科：実用英語検定 流通経済科：日商簿記検定・全商簿記検定 情報科学科：経産省ITパスポート・全工情報技術検定 教育情報科：実用英語検定・全工情報技術検定 資格取得状況をホームページで公表する。</p>	A
<p>取組内容②【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>学習意欲や進路意識を高め進学実績を向上させるため、外部講師による講演会等や大学見学会等の実施を図る。また、面接指導の充実を図り、昨年度に続き、就職内定率100%を達成する。ただし、新型コロナウィルスの状況によって、実施形態や実施時期は臨機応変に対応する。</p> <p>指標 前年度より進学実績を向上させる。 就職希望者の内定率100%を達成する。 進学・就職状況をホームページで公表する。</p>	B
<p>取組内容③【施策6 英語教育の強化】</p> <p>オーストラリアの姉妹校（バイビューカレッジ）への生徒の派遣や姉妹校（パークデールセカンダリーカレッジ）からの訪問団の受け入れは、新型コロナウィルスの影響によって厳しい状況である。状況によって、インターネットを活用した交流など可能な範囲で実施したい。</p> <p>指標 取り組みを進め、海外姉妹校との交流状況をホームページで紹介する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 新型コロナウィルスの影響で、当初の計画が乱されたが、各専門科の工夫・調整によって、きめ細かい指導が保障されてきた。新学科の1年生では、STEP 英検の準2級を40名が受験し16名合格、情報技術検定2級を78名が受験し55名合格など、英語と情報の両分野でこれからの時代に対応する人材育成を目標とした学科にふさわしい成果が見られる。</p> <p>② 突然の臨時休業でも学習量や評価に影響がないよう、ほとんどの教科で、日々の小テストや課題の実施を充実させて家庭学習の習慣をつけるとともに、進路決定や資格取得・日常の学習効果を高めるための放課後補習を個別に対応・実施してきた。結果、年度末に補習を必要</p>

とする生徒は例年より減少し、進路も例年通り順調に決定、就職内定率も100%を維持している。今後、最終結果をウェブページで公開する。

③ オーストラリアの姉妹校とは、渡航禁止措置により、訪問団の派遣・受入れがかなわず、オンラインでの交流を実施した。しかし、ビクトリア州のロックダウンの期間は、姉妹校の学習活動が停止するなど、十分な回数は確保できなかった。

次年度への改善点

新型コロナウイルスによる臨時休業からスタートしたことで、生徒の家庭学習習慣の重要性が浸透し、各教科で工夫をしてきた年であった。結果、通常授業の中でも、生徒が自主的に学習活動に取り組む場面が増加したが、家庭学習の時間が十分確保されているとは言えない状況にあり、さらに習慣化を促す指導を確立しなければならない。

(2)【教務部】

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>組織的な学校運営を行い、新学科、新教育課程の内容を熟考し、社会の変化に対応できる人間を育成する教育活動を推進する。</p> <p>データシステム部統合により、入試処理・成績処理・調査書作成の各システムを改良するとともに、システム間でもデータの共用化など連動部分を強化する。また選択科目システム・時間割作成システム・名列表作成システムのデータ共通化と操作性の向上をめざす。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 教育活動のための時間確保】</p> <p>授業時間数の確保を考え、年間行事を計画する。</p> <p>指標 曜日ごと・時限ごとの実時間数を数え上げ、バランスがとれるように曜日変更などで調整する。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 教育活動のための時間確保】</p> <p>新教育課程の実施に向けての内容を検討する。</p> <p>指標 第2希望に移る生徒の数を減らすように、選択科目ブロックの調整をする。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 教育活動のための時間確保】</p> <p>追認対象者を減らすとともに、その指導を徹底する。</p> <p>指標 追認対象者に対し全体説明を行い、その後各教科からの説明を行って複数の立場から指導する。</p>	B
<p>取組内容④【施策5 教育活動のための時間確保】</p> <p>入試・選択科目・時間割作成・名列表作成システムのデータ一元化と修正をする。</p> <p>指標 学校全体の校務で扱っているデータを総合的に理解し、効率的に一元化する。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策5 教育活動のための時間確保】</p> <p>成績処理・調査書作成システムの改良をする。</p> <p>指標 通知票の様式変更、調査書の仕様変更に対応する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①コロナ禍の影響で休校日数が増えたが、休日授業日や時間割変更等を実施し、授業時間数の最低限の確保とともに科目間の授業時間差異を極力少なくすることができた。</p> <p>②新学科の教育課程について、現在の3学科のそれぞれの強みを継承をしつつ、現代のニーズに合った教育課程を編成することができた。</p> <p>③追認試験対象者を例年より少なくすることができた。</p> <p>④新学科1年目ということで、入試・時間割作成・名列表作成システムの改良を行い、運用する</p>

ことができた。

⑤成績処理・調査書作成システムについて、今年度、問題になった点についての改良を加え、運用しやすいものとなった。

次年度への改善点

従来の3学科に加えて教育情報科の1年生がはじまったが、本年度同様新2年生の準備をしっかりとし、運用が滞ることがないようにしていきたい。

(6)〔健康教育部〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 定期健康診断での事後措置で、精検を指示された生徒へ早期受診を促し、学習に支障のないように指導する。</p> <p>② 慢性疾患を持つ生徒には自己管理ができるように定期的に懇談し、心身の安定を図るよう指導する。</p> <p>③ 心の健康に問題を抱える生徒には、個々に応じたアプローチをし、行動化に結び付くような指導を心がける。</p> <p>④ 生涯にわたってよりよく生きるために、健康を維持するための正しい知識を身につけるとともに、余暇の過ごし方も含めた基本的生活習慣を定着させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>定期健康診断での有所見者に対して、個別指導を数回にわたって行い、受診の必要性について理解させたうえで、早期受診に結び付ける。</p> <p>指標 今年度中に50%以上の受診率をめざす。</p>	B
<p>取組内容②【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>保護者・主治医・担任・教科担当者・部活動顧問で情報の共有化を図り、体制作りをする。生徒本人とも定期的に懇談する機会を設けて管理状態を相互チェックし、必要に応じて指導を行う。</p> <p>指標 個別の指導計画を作成し、共有化する。</p>	B
<p>取組内容③【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>心の健康について欠席状況や担任から情報を得る。心因性が疑われる場合には、保護者やスクールカウンセラーを交えて連携を図り、早期に対応する。</p> <p>指標 一週間ごとに保健室来室状況を担任及び学年に連絡する。欠席が続く生徒には個別の面談を行う。</p>	A
<p>取組内容④【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>食、睡眠、自己実現、人・社会との繋がり的重要性を、様々な角度から認識させる機会を作り、行動化・習慣化につながる体験をさせる。</p> <p>指標 配布物・掲示物の工夫。学校保健関係者の協力を得て、講演会・講習会などを計画実施し、全教職員にも周知する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>コロナの影響により予定通りの検診が困難となったが、昼休みを利用し数回に分割することで対応した。体育祭の9月実施、短縮化によって熱中症が減少した。</p> <p>自己管理（睡眠・食事・休息）がうまくできない生徒の増加に伴い、保健室来室数も急増している。主体的に生活習慣の改善に取り組む意識改革の方策をさらに徹底させていきたい。心の問題を抱える生徒に対するスクールカウンセラー、保護者、担任との連携による早期対応が問題への早期対応につながった。</p>

次年度への改善点
<p>受診率は例年よりさらに少なくなったが、他校の実践を参考にしコロナ状況をみながら促していく。体育祭の実施形態を含め、熱中症による重症化を避けるための方策を考えていきたい。個々の生活習慣見直しのきっかけとして、保健日より、委員会活動を通じて発信する。心の問題を抱える生徒へ初期対応ができる体制づくりを継続していきたい。心の問題を抱える生徒への対応には各部署の連携を継続していきたい。</p>

(8) [英語科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 効果的な授業案や指導により、英語の運用能力を身につけさせ、英語検定の合格率を、前年度の水準より上げる。</p> <p>② 生徒の希望を実現できる進路指導やガイダンスを行う。</p> <p>③ 組織的な補習体制を組み、生徒の進路実現を支援するため、週1回以上の補習をする。</p> <p>④ 日本文化を発信し、異文化を正しく理解する機会（教材、プレゼンテーション）を増やす。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 英語教育の強化】</p> <p>少人数制のコミュニケーションの授業や流通経済科・情報科学科コミュニケーション英語Ⅱの授業で、生徒が積極的にコミュニケーションをとることを促す指導案や活動の計画をたてる。英語検定の合格率を前年度より上げる。またLL設備を見直し、英語教育の更なる充実を図る。オンラインによるアセスメントを行う。第2学年において、オンライン英会話を実施する。X reading 等を活用した多読指導を行う。Edmodo や Quizlet などを用いて自学自習を促す。</p> <p>指標 週に2回程度（英語科）CNET との少人数制授業を実施する。英語検定合格者数をホームページで公表する。</p>	A
<p>取組内容②③【施策6 英語教育の強化】</p> <p>組織的な補習体制を組み、進学に向けて意識を高める。より多くの生徒の学力向上をめざして支援する。また進路実現に向け、指導を充実させる。</p> <p>指標 補習は週1回以上。また長期休暇中に集中講座を行う。</p>	A
<p>取組内容④【施策6 英語教育の強化】</p> <p>授業で他国や自国の文化を発表するプレゼンテーションを行う。また、異文化を学ぶ教材を取り入れ、異文化を正しく理解する態度を養う。英語でのプレゼンテーションに加え、効果的なプレゼンテーションができることを目標とする。</p> <p>指標 他国や自国の文化を発表するプレゼンテーションを多く行う。各国の行事を体験するイベントを年に数回行う。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>少人数制の教育情報科・英語科セミナーや流通経済科・情報科学科コミュニケーション英語Ⅱの授業で、C-NET と協力して多様な言語活動を行った。進路補習、検定対策補習、面接指導など生徒の学力向上に向け、補習が行われた。小演習室のモニターを利用し、効果的なプレゼンテーション活動を行った。オンライン学習や多読活動などの深化に努めた。</p>

次年度への改善点
<p>自学自習を行い、自立した学習者育成していくために、Teams や G-suite などにより有効活用して、オンライン学習活動や、ICT 機器を効率的に利用した学習を促進する必要がある。</p>

(9) 〔流通経済科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 科で作成した学習ロードマップに基づいた指導の徹底。簿記・英語検定合格率の向上。英語科（全商英検、STEP英検）との連携。</p> <p>② 流通経済科の教員で、受験指導ができる体制を整え、AO入試・専門科推薦への受験指導を徹底する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>簿記検定においては流通経済科の教員全員で補習等を実施し、情報処理検定やその他の検定との連携をとる。</p> <p>指標 全商簿記検定と全商情報処理検定のいずれかの1級合格者が前年度を上回るようにする。取得状況をホームページで公表する。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>AO、推薦入試方式が多様化し、志望動機・小論文における流通経済科的知識が求められる。個々のきめ細やかな指導が必要になり、科で担当生徒を決め、個別対応できるようにする。</p> <p>指標 AO、推薦入試を前年度以上の受験者数をめざす。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>今年度の四年制大学の進学について、AO入試の受験者は9名で合格者9名、専門学科推薦は受験者3名で合格者2名、公募推薦は受験者2名で合格者1名、全商推薦などの特別推薦は受験者5名で合格者5名、一般選抜は受験者2名で合格者1名であった（関西学院・京産・大商大など）。合格率が高かった要因として、3年担任と流通経済科教員が連携しながら志望大学の相談や試験対策など、生徒ひとり一人にきめ細かい指導ができたからだと考える。</p> <p>次年度も進学希望者の意向をつかみ、早期からの小論文練習や活動報告書などの指導が必要である。</p>

次年度への改善点
<p>習熟度別指導を徹底させ、検定合格者数の増加、学力向上をめざしていきたい。</p> <p>個々の特性を尊重し、キャリア教育を発展させるようにする。また、多様な入試制度に対応していけるよう教員側の情報共有も充実させたい。</p>

(10) 〔情報科学科〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 本年度はIoTの分野に力を入れるため、3Dプリンタに加え導入したレーザー加工機を使用し、モノづくりの部分について強化する。また、作品提出型の入試に提出できる作品の制作を促す。</p> <p>② 本年度も関西大学との高大連携によるハイスクールハッカソンを実施する。</p> <p>③ 情報分野の国家試験や情報技術検定の受験を促し、合格者数を増加させる。</p> <p>④ 卒業後の進路について、将来の職業やそれにつながる進学先などの具体的なイメージを持たせ、生徒個々の進路希望に応じた個別指導の充実を図る。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>電子工作実習や課題研究など多くの授業で3Dプリンタやレーザー加工機を活用する。課題研究の作品クオリティを高め、作品提出型の入試への挑戦を促す。</p> <p>指標 工作機器を用いた生徒作品を完成させる。 作品提出型での受験生を増加させる。</p>	A
<p>取組内容②【施策8 大学連携の推進】</p> <p>本校に工作機器等が揃ってきたため、昨年度まで関西大学で実施していたハイスクールハッカソンの会場を本校に移して実施する。</p> <p>指標 本校でハイスクールハッカソンを実施し、生徒アンケートで高評価を得る。</p>	C
<p>取組内容③【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>資格取得に向けた補習の実施やeラーニングの提供をおこない、昨年度合格者が減少したITパスポート試験の合格者を増加させる。また、情報技術検定1級の合格者数や基本情報技術者などの上位資格の合格者実績を維持する。</p> <p>指標 ITパスポートの合格者数が前年度を上回るようにする。情報技術検定1級の合格者数を10名以上にする。取得状況をホームページで公表する。</p>	B
<p>取組内容④【施策2 キャリア教育の推進】</p> <p>多様化する進路実現の方法を踏まえ、進路ガイダンスやディスカッションを通して具体的な進路の意識を高めさせる。また、情報科学科の全教員で個別指導を積極的におこない、各生徒の事情・希望に応じた進路を実現させる。</p> <p>指標 年度末において、進路未決定の生徒を減少させる。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>新しく導入したレーザー加工機を実習や課題研究、文化祭などでも活用した。課題研究では、西高校体育館のジオラマやエフェクターなどの制作にレーザー加工機を活用する班があった。また、オンライン対戦ができるFPSゲームやスマホ操作による音楽ゲームを作る班など、課題研究の授業では生徒作品のクオリティが上昇した。大学連携の面では、コロナウィルス感染症の影響により夏休みが1週間程度となり、ハイスクールハッカソンを実施することができなかった。資格面では、今年度のITパスポート取得者は4名、情報技術検定1級取得者が8名と、目標を達成することはできなかった。しかし、2年生8名が情報技術検定1級の科目合格をしており、3年生での取得に向けて補講をおこないたい。</p>

3年生への進路指導は、一般入試で進学を目指している生徒以外、全員の進路が決定した。

次年度への改善点

次年度も、高大連携でのハイスクールハッカソンの実施が難しいが、2年教育情報科にて1単位の夏期講座として校内ハッカソンを実施する。

情報科学科最後の3年生2クラスとなるが、課題研究や進路実現を中心に今まで以上の成果を残せるように継続して指導をおこなう。

(11) [教育情報科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 1年生では、パソコンを無理なく扱える情報リテラシーを習得する。また、ビジュアルプログラミングから始め、楽しみながらプログラミングやハードウェアの基礎的な知識を習得する。</p> <p>② 主体的、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとする姿勢を育成する。日常的话题や社会的な話題について、話し手や書き手の意図を的確に理解したり、情報や考えを適切に表現できる基礎的な力を身につける。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策6 ICTを活用した教育の推進】</p> <p>基本的なパソコン操作やタイピングを習得し、Office系ソフトを使いこなすリテラシー能力を習得する。また、ビジュアルプログラミングからC言語に発展させ、情報技術検定の取得を目指す。</p>	B
<p>指標</p> <p>P検3級の合格率を100%にする。 自分の選択した級における情報技術検定の合格率を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容② 【施策6 英語教育の強化】</p> <p>少人数制のコミュニケーションの授業で、生徒が積極的にコミュニケーションをとることを促す指導案や活動の計画をたてる。多読指導を行うことで、英語に触れる機会を充実させるとともに、言語や文化に対する理解を深める。GTECやオンラインによるアセスメントを行い、4技能全体の伸長を目指す。</p>	B
<p>指標</p> <p>週に2回程度CNETとの少人数制授業を実施する。英語検定合格者数をホームページで公表する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>P検3級において、現在4名合格に至っていないが今年度中に再チャレンジする予定である。情報技術検定については、生徒に2級と3級の選択をさせず全員2級の合格を目指した結果、合格率は70%になった。しかし、2年生の授業に向けて必要な基礎知識は習得できている。</p> <p>少人数制のイングリッシュセミナーの授業で、C-NETと協力して多様な言語活動をおこない積極的にコミュニケーションを取ろうとする基本的な姿勢の育成に努めた。また、サマーセミナーにおいては、教育探究と合同のプロジェクトに取り組んだ。</p>

次年度への改善点
<p>情報分野の2年生からは、アプリケーション制作やコンテンツ制作など1年生で習得した技術を発展させた内容となる。全生徒が自ら考え、作品制作を進められるようにきめ細かいサポートが必要となる。</p> <p>英語分野では、自学自習を促し自立した学習者を育成する必要がある。検定合格者数の増加と英語力の向上を目指していきたい。</p>

(12) [国語科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 漢字や現代用語、古文単語などの語彙の学習により、基礎的な国語力の向上をめざす。</p> <p>② 読解力と共に論理的思考力・表現力を身につけさせ、ものの見方・考え方を深める。</p> <p>③ さまざまな作品・文章に触れることで、想像力を養い言語感覚を磨いていく。</p> <p>④ 生徒の進路希望状況に応じて、個別指導や補習を実施する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】 漢字問題集を長期休業中の課題として学習し、提出させる。</p> <p>指標 範囲を定め、定期的に問題集に基づいた小テストを行い、各定期考査にも出題して定着度を確認する。</p>	B
<p>取組内容② 【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】 教材を読み、学んだことをもとに自分の考えを文章にまとめさせる。</p> <p>指標 各定期考査、小テスト、提出物等で確認する。</p>	B
<p>取組内容③ 【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】 各種コンクール等に応募する機会を与え、さまざまな図書に触れたり創作活動をしたりすることで表現力を身につけさせる。</p> <p>指標 休業中の課題として読書感想文を課し、短歌・俳句などの創作活動にも取り組む。</p>	B
<p>取組内容④ 【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】 生徒の進路希望状況に応じた小論文指導や、進学者を対象とした補習を実施する。</p> <p>指標 昼休みや放課後を利用した個別指導や、夏季休業中等に進学補習をおこなう。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 課題内容について、各学年での定期的な小テストの実施や定期考査への出題をし、定着をはかった。</p> <p>② 各単元の学習を終える度に要約文を書かせ、担当者で助言・指導をおこなった。また、それらを平常の提出物として評価した。</p> <p>③ 休校中・夏季休業中の課題(1・2年生)であった読書感想文はコンクールに応募し、2名が入賞した。また、短歌・俳句の創作活動にも取り組み、コンテストに応募して、短歌2名・俳句2名が入賞した。</p> <p>④ 夏季休業が短く進学者対象の補習が実施できなかったため、個別の進学指導をおこなった。</p>
次年度への改善点
進学・就職等、進路実現の対策として、授業での表現力の向上を目指したい。

進学希望者に対する補習内容の充実をはかりたい。
デジタル教材や、プロジェクタ・モニターを効果的に用いて、授業に役立てたい。

(13) [地歴公民科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上</p> <p>① 各必修科目において高校での地歴公民学習への導入と動機づけを行う。</p> <p>② 2年の「世界史A」の授業において、世界の近現代の歴史を我が国の歴史との相関を踏まえながら、現代社会の諸問題の原因等に着目して考察させる。</p> <p>③ 3年の「日本史A」の授業において、我が国の近現代の歴史を世界の歴史と関連づけながら、現代社会の諸問題に着目して考察させる。</p> <p>⑤ 演習等の選択科目の授業において、「地歴公民科」を大学入試の受験科目とする3年生を対象として、放課後や夏季休業中を利用して、補習を実施し授業開始が遅れた部分を補い共通テストにも対応する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 教育活動のための時間の確保】</p> <p>小テストなどを通じて、中学校での基礎的知識の確認を行う。また、白地図(日本地図・世界地図)を利用した作業も行う。</p> <p>指標 各学期を通じて行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策3 社会的包摂と現代的・社会的課題についての学習】</p> <p>新聞やインターネットを利用しながら、最新のニュースを取り上げて、授業に生かす。また、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことに対応して、政治的教養を育む教育を行う。</p> <p>指標 社会で問題となる事象が起きた時に、それを取り上げる。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】</p> <p>近代社会が成立し発展する過程を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて考えさせ、ものごとを実証的な考察によってとらえる歴史的思考力を身に付けさせ就職・進学ともに対応できる能力を養う。</p> <p>指標 ともすれば堅苦しくなりがちな授業に、必要に応じてエピソードや逸話、また視聴覚教材等を取り入れながらすすめる。</p>	C
<p>取組内容④【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>放課後や夏季休業中を利用して補習を実施し、地歴公民科を利用した私立大学の一般入試や共通テストでの高得点をめざす。</p> <p>指標 私大一般入試や共通テストを利用する生徒を昨年度より増やし10人程度にまで増やす。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>コロナ禍でグループディスカッションで諸問題について話し合う形式は取れなかったが、個々の発表・感想を述べる形では達成できた。世界史B・日本史B合わせても共通テスト・私大一般入試で必要とするものは10名を切ってしまった。共通テスト受験者の得点は高かっただけにまだまだPR不足を感じる。</p>

次年度への改善点

日頃の学習習慣を身に着ければ共通テスト・私大一般入試はそれほど難問ではないことを理解させ、地歴公民科を使って最後まで入試を頑張れるように指導していく。日頃の授業でもっと関関同立産近甲龍の解法をさせる必要がある。

(14) [数学科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標とおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 机間指導や小テスト等で生徒の理解度を把握し、授業内容に反映する。</p> <p>② 学習の動機づけとなる話題や教材を生徒に提示する。</p> <p>③ 復習を習慣づけるため、できるだけ頻繁に課題を与える。また問題集を有効に利用し、各定期考査後または長期休業後に解いたものを提出させ、自主学習の習慣をつけさせる。</p> <p>④ 理解度や進路希望等を考慮し、放課後や長期休業中に補習等を行う。</p> <p>⑤ 看護・医療系志望や高専志望、専門学科推薦での受験をする生徒に対して、年間を通じて目的を達成する時期まで補習を行う。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策5 理数教育の充実】</p> <p>生徒の理解度は学科によっても異なるので、個々に理解度を把握しながら、授業内容を充実させていく。</p> <p>指標 考査成績について、昨年度との比較および学科間の比較をしていく。</p>	B
<p>取組内容② 【施策5 理数教育の充実】</p> <p>数学科内で、授業形式・教材や生徒の状況について、連携しながら進めていく。</p> <p>指標 共有できるものはデータとして蓄積していく。</p>	B
<p>取組内容③ 【施策5 理数教育の充実】</p> <p>単元ごと、考査ごと、長期休業ごとに、問題集や課題プリントなどの課題を与えて、確認し指導する。</p> <p>指標 考査ごとや長期休業ごとに、課題を提出させて確認し指導する。</p>	B
<p>取組内容④ 【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>成績不振生徒に対して、考査後の補習や長期休業中の補習を行う。</p> <p>また希望生徒に対して、進路希望に応じて個別または進路別に補習を行う。</p> <p>指標 成績不振生徒の補習や課題提出を考査ごとに実施する。</p>	B
<p>取組内容⑤ 【施策5 理数教育の充実】</p> <p>看護・医療系志望や高専志望、専門学科推薦での受験をする生徒に対して、早い時期から進路決定するまで補習を行い、志望校への合格をめざす。</p> <p>指標 対象校への志望者の全員合格をめざす。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

授業で生徒に理解させることを第一に考えながら、日々課題に取り組みせ、宿題の提出や小テストの活用により家庭学習習慣の定着を図った。成績不振者には、定期考査前後を中心に適宜補習も行った。新型コロナの影響で短かった夏季休業中の補習は行えなかったが、三年生に対して二学期以降は授業の中で受験対策を取り入れたり、個別に受験向けの指導も行い、最後までサポー

トした。また、一二年生に対しても次年度以降の受験に向けて、校内での外部模試受験なども活用して、早くから受験を意識できるよう指導した。

次年度への改善点

日々の課題にじっくり取り組まず、形式的に終わらせてしまっている生徒が増えてきているように感じる。学習目的と方法から再度考えさせ、家庭学習がより習慣づくような指導をしていきたい。またその指導の中で、早くから受験に対して意識し行動できるような生徒を増やしたい。

(15) [理科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 小テスト・宿題を実施し、基礎事項の理解・定着を図る。</p> <p>② 実験、観察などで、安全に対する意識の徹底を教育すると共に、基礎事項の理解を深める。</p> <p>③ 放課後・昼休み・長期休業中を利用した補習を行い、進学希望者に対しては大学入試レベルの実力を、理解が不十分な生徒には基礎学力をつけさせる。</p> <p>④ 視聴覚教材を活用し、環境問題、感染症、エネルギー問題等の時事問題にも、発展的学習として取り組む。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 理数教育の充実】</p> <p>小テスト・宿題を課し、基礎事項の理解・定着を図る。</p> <p>指標 単元ごとに、1週間に1度以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 理数教育の充実】</p> <p>実験・観察をする。</p> <p>指標 安全教育を基盤に行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>個々の状況に応じて、補習を実施する。</p> <p>指標 進学用補習は主に夏季休業中に実施する。基礎学力定着は各定期考査前後や必要に応じて、放課後等に実施する。</p>	B
<p>取組内容④【施策5 理数教育の充実】</p> <p>時事問題に取り組む。</p> <p>指標 視聴覚教材を活用する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

理系科目について苦手意識を持つ生徒が多い中で、小テストや宿題、補習、実験、観察を適宜取り入れながら、興味関心の向上と基礎力の定着に努めた。授業に取り上げる話題も身近なものを選び、興味関心を持てるように工夫した。苦手意識はなかなか消えないが、真面目に取り組めば結果につながると感じている生徒も多い。

次年度への改善点
理系進学希望者に向けての補習の充実と進学用カリキュラムの検討。

(16)【保健体育科】

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標とおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 自らの健康を維持するために保健内容を理解し、基本的な生活習慣を身につけさせる。</p> <p>② 体育理論の理解をとおして、体力の向上を図る。</p> <p>③ 正しいストレッチの方法を理解し、怪我の防止に努めさせる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>保健の授業をとおして、身体のしくみや健康寿命を延ばすための知識を身につけさせる。</p> <p>指標 各定期考査において、学習の理解度を確認する。</p>	B
<p>取組内容②【施策7 子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実】</p> <p>体育理論の授業をとおして、運動・スポーツの文化的特徴、学び方、豊かなスポーツライフの設計等の知識を理解させ、より効果的に体力向上が実現できるよう指導する。</p> <p>指標 年間をとおして保健体育の教科書・体育編の授業を実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策7 子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実】</p> <p>ストレッチの重要性について理解させ、怪我の予防に努めさせる。</p> <p>指標 ストレッチが正確に実践されているか、毎時間確認する。</p>	B
<p>取組内容④【施策7 健康に関する現代的課題への対応】</p> <p>睡眠・食事の重要性を理解し、自主的に生活習慣を整えさせ、欠席・遅刻・見学することなく授業が受けられるよう指導する。</p> <p>指標 授業のはじめに欠席・遅刻・見学者の状態や体調確認を行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策7 子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実】</p> <p>スポーツテストを実施し、自己の体力を把握させることで、基礎体力の向上・維持を図る。準備運動・補強運動を正確に行うよう指導する。水泳・持久走の補習を徹底して行うことで、基礎体力の向上を図る。</p> <p>指標 準備運動・補強運動の様子を観察する。スポーツテストの記録を比較し、体力の向上を確認する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
健康に関する知識の習得により、自己の健康管理への意識を高めることができた。コロナ自粛による基礎体力不足を補うために、補習の実施を充実させ、運動量の増加に努めた。準備運動とストレッチを正確に実施することで、けがの予防に努めた。

次年度への改善点
生涯にわたり健康で充実した生活を送るための知識を身に着けることで、基本的な生活習慣の確立と、基礎体力の維持向上を目指す。

(17)【家庭科】

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組まず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 生徒が関心を持って取り組めるような題材を取り上げ、家庭生活に応用できる力を身につけさせる。</p> <p>② 実験・実習は、生徒が主体的に取り組むことができるよう内容を工夫する。</p> <p>③ 家庭生活中で生かす実践力の重要性を理解させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>日常生活において実践できるような身近な教材を取り入れ、イメージしやすい状況をつくり、生徒が家庭生活に応用できる力を付けさせる。</p> <p>指標 各定期考査やレポートなどにより学習の理解度を図る。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】</p> <p>実験・実習を通して知識や技術の修得に加え、計画や意思決定、結果の分析などができるような内容にし、生徒同士のコミュニケーションを通して学習への理解をさらに深めさせる。</p> <p>指標 家庭基礎では年4回程度、生活実践では年10回程度の実習・実験を実施し、生徒が積極的に取り組む機会をつくる。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>家庭生活中で活用できる実践力を身に付けさせ、生活力の重要性を理解させる。</p> <p>指標 各定期考査やレポートなどにより学習の理解度を図るとともに、実践的な力を実習で身に付けさせる。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①各分野において、実生活との関連が持てるような題材を取り上げることで、授業への関心を高めることができた。今年は動画や画像を活用できたので、イメージしやすい状況ができた。</p> <p>②実験・実習はコロナの影響で回数が少なくなりましたがコロナ対策を考慮しながら実習を行うことで、今必要な知識や対策を考えることができた。</p> <p>③実際に生活の中で活用している様子がレポートなどからうかがえた。</p>

次年度への改善点
成人年齢の引き下げや、コロナ対策など社会が変化することで家庭生活への影響は大きい。日常生活との関連をふまえて、より将来において生徒たちが実生活中で活用できるような内容を取り入れていきたい。

(18) [芸術科]

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標とおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 書道書道に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。 ② 書道完成度を高め、漢字・仮名・漢字仮名交じりの書の学習に個性的な思考・判断ができる生徒を増やす。 ③ 美術道具・素材を生かし創造的な表現をするために必要な技術を身につけた生徒を増やす。 ④ 美術美術に意欲的・主体的に関われる生徒を増やす。 ⑤ 音楽音楽に関心を持ち、どのようなジャンルでも意欲的に取り組める生徒を増やす。 ⑥ 音楽音楽の基礎を身につけて、読譜力、ソルフェージュ力を増やす。 ⑦ 音楽合唱作品に取り組み、自然に協調性を身につける。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】 筆と半紙だけでなくいろいろな用具・用材を使って興味をもたせつつ、日常生活で使えるものから古典的なものへと多種にわたる書道を指導する。 指標 定期考査で半分以上の生徒が高得点をとる。学期ごとに2点以上の作品を完成させる。(3学期は期間が短く1点)</p>	B
<p>取組内容② 【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】 筆と半紙だけでなくいろいろな用具・用材を使って個性的なものにしつつ、さらに外部の展覧会に出品することを目標にすることで作品をまとめる力を身につける。 指標 学期ごとに1度は外部の展覧会に出品する。</p>	B
<p>取組内容③ 【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】 ・それぞれの課題に応じた作品を作り技術を身につけていく。 ・多くのものに触れて感性を磨く。 指標 学期ごとに約2作品を制作完成させる。スケッチブックが3学期にはすべて埋まるように感じたもの描きとめていく。</p>	B
<p>取組内容④ 【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】 ・作品を学校外で発表することで意欲を持たせ完成度をあげる。 ・制作だけではなく、展覧会を見に行ったり、美術に関することを調べたりして興味を持たす。 指標 文化祭、芸術祭に選択生徒の半数が展示する。レポートを3学期までに1つは書き上げる。</p>	B
<p>取組内容⑤ 【施策2 音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出】 交響曲、協奏曲などいろいろな音楽の鑑賞をする。オーケストラの奏でる音色や、立体的な音楽構造を感じ取る。 指標 授業回数：2時間 頻度：1カ月に2作品程度 取り組む人数：個人</p>	B
<p>取組内容⑥ 【施策2 音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出】 五線譜の理解、リズムの理解等に取り組む。 指標 授業回数：毎回 頻度：1学期・2学期中 取り組む人数：個人</p>	B
<p>取組内容⑦ 【施策5 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進】 自分たちでグループを組み、合奏や合唱など自由な編成で音楽活動に取り組む。 指標 授業回数：10回 頻度：2学期中 取り組む人数：2～10人程度</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>基礎から行いつつそこから芸術として持っていく創意工夫をそれぞれ行った。同時に生徒が意欲的・主体的に取り組めるよう校内外での発表の場を設け行った結果意欲向上がみられる。視覚的情報を取り入れやすくなったため、想像力を補助することや作品を見直し達成感を味わわせることが出来た。</p>

次年度への改善点
今後とも発表の場を維持していきつつ、個々の状態を把握しそれぞれの理解力が深まっていくよう視覚・聴覚からのアプローチを図っていく。

(19)〔1 学年担任団〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 情報と英語の両分野における基礎知識を定着させて、2分野において次年度以降の発展的な学習につながる学力をつけさせる。</p> <p>② 生徒の適性、興味関心を見極め、適切な情報提供を行い、積極的な課外活動への参加を促す。</p> <p>③ 進路決定の際に、自らの専門性をより効果的に生かすために、基礎学力を高めるよう促す。</p> <p>④ 挨拶、言葉遣い、礼儀の大切さを十分理解させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>情報、英語の教科担当者と連携して、専門教科2分野の遅れがある生徒への補習体制を整備する。定期考査ごとに対象生徒を把握し、フォロー体制を作り学年終了時点で2分野への苦手意識を減らす。</p> <p>指標 定期考査ごとにフォロー対象になる生徒を減らしていけるようにし、学年終了時点でフォロー対象生徒を1割以内に収める。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>4人の担当でサポートし、生徒各々の適性、興味関心を見極めて、課外活動などへの参加を促す。</p> <p>指標 入学後、適性、興味関心を確認し、信頼関係構築のために、1学期中に学年団で全員と面談を行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>スタディサポートを有効的に活用するために模擬テストの事前、事後指導をデータに基づき綿密に行う。さらに進路行事などを通じて専門教科以外の普通教科に関しても大切さを認識させる。また、朝学に学年全体で取り組めるように、交代で教員の朝学当番を設置し、毎日の習慣づけを行う。朝学を活用し、苦手分野の克服を図る。</p> <p>指標 スタディサポートの事前事後説明会を行う。 スタディサポートの事前課題を丁寧にチェックして、完全な提出状況を作る。 毎朝、全員が8:25に着席して、学習体制に入っている状態を作る。 毎日、全員が朝学の提出を行うようにする。</p>	B
<p>取組内容④【施策2 道徳教育の推進】</p> <p>登下校時の挨拶、教員に対する言葉遣い、他人に対する礼儀について、学年全体でも、個別でも、機会があるごとに説明し、理解を促していく。</p> <p>指標 多くの生徒が挨拶、丁寧な言葉使い、礼儀について自主的に行動できるようになる。</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
情報、英語の専門性を深めていくための基礎力UPの1年間をしっかりと送ることができた。英語検定、情報技術検定の資格取得を目安にしながら、日々の補習と授業によって基礎学力の定着を図ってきた。定期考査でフォローが必要な生徒は最終的に1割以内にとどめることができた。

年間を通して学年団4人の教員で生徒全員と1回以上の個人面談を行った。情報と英語の興味関心を判断し、基本情報技術者検定と英語検定2級の補習対象者をそれぞれ約10人ずつ集めることができ、資格取得に励ましている。今年も行われるのが少なかった課外での活動においても、教育分野で甲南大学のリサーチフェスタに8人、教育と探求社主催のクエストカップ全国大会に8人がオンラインで参加し、活動することができた。

スタサボの事前事後指導、課題提出、成績振り返りなど実施できたことにより、生徒のテストへの取り組み姿勢を前向きなものにすることはできたが、普通教科への意識を高く持たすことについてはあまり成果を感じることができていない。朝学指導も毎朝行うことで3学期くらいから、25分になると9割以上の生徒が着席して課題に取り組むようになった。

挨拶について、特に不十分であった。授業の開始、終わりの挨拶、朝の挨拶がなかなかできない。挨拶の意義と効果をしっかり理解させたい。

次年度への改善点

英語・情報、両分野の苦手意識を払しょくする。それと同時に、進路を意識させて、自分の興味関心を見極め、深めていくことをさらに進めていきたい。スタサボ、朝学の有効活用。進路指導の充実。

(20)〔2学年担任団〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習を継続し、基礎学力の定着をさらに深めるとともに、より専門的で高度な学力の向上をめざす。自主的に1日最低1時間の家庭学習をおこなう習慣を身につけさせる。 日々の学習を基にしながら、自主的に能動的な学習をする姿勢を育成し、自ら進路を見いだす姿勢につなげさせる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>引き続き朝学習を実施し、英語、国語、計算、時事の他に、専門学科の日も設け、基礎学力の定着を図る。朝学習の習慣から自主的な学習の意義を理解させ1日最低1時間の家庭学習の習慣にもつなげていく。</p> <p>指標 朝学習の定着と家庭学習習慣の定着とともに提出物の確実な提出。学習内容の8割以上の理解をめざす。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容②【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>1年生からの自らの学習状況を基にして、進路を見いだしていくための自主的、能動的な学習の必要性に気付かせるとともに、生徒個々の進路状況を把握しながら必要に応じて指導を行う。</p> <p>指標 自主的、能動的な学習と進路研究ができるよう指導する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

概ね朝学習に取り組む姿勢が身に付いている。国語、英語を中心にして、学科ごとに必要な学習内容も盛り込んだ。自らの希望進路実現に向けて、成績向上に努力し、資格取得のための能動的な学習に取り組む生徒も増えている。教員間や家庭と連携を取りながら、根気強く指導を行っている。

次年度への改善点

希望の進路実現に向け成績向上に努力し、格取得のための専門的な学習に積極的に取り組む生徒も増えている。その中であって、まだまだ目標が定まっていない生徒も見られるため、様々な進路を希望する生徒たちに次年度も継続して対話を重視しながら、個々に応じたきめ細かい指導を行いたい。

(21)〔3学年担任団〕

評価基準 A…目標を上回って達成した B…目標どおり達成した C…取り組んだが、目標を達成できなかった D…ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 朝学習を継続するとともにその内容も精査し、基礎学力の定着および専門的で高度な学力の向上をめざす。また、自己実現、希望進路実現のための家庭学習の必要性を認識させ、自ら進んで能動的に、毎日最低2時間程度は家庭学習をおこなう習慣を身につけさせる。</p> <p>② 生徒一人ひとりの進路の目的を把握し、保護者・進路指導部と十分な連携をとりながら、希望進路実現のための的確な支援を行えるよう配慮する。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容① 【施策5 放課後を活用した学習機会の支援】</p> <p>引き続き朝の学習時間を設定し、英語、国語、時事関連や専門学科の基礎知識の定着を図る。基礎学力の不足については、自主的に放課後等を利用した学習や家庭学習をおこなう習慣を身につけさせるとともに、生徒個々の進路状況を把握し、必要に応じて指導も行っていく。</p>	B
<p>指標 学習内容の8割以上の理解。提出物の確実な提出。毎日2時間程度以上の家庭学習時間の確保。</p>	
<p>取組内容② 【施策2 キャリア教育の充実】</p> <p>希望進路実現に向けて知識や学力を高めるために、進路指導部と連携し、講話等の指導を適宜行う。保護者や進路指導部と十分な連携をとりながら、的確な支援を行う。1学期中に生徒全員との進路に関する懇談を実施し、生徒一人ひとりの進路希望を実現させる。</p>	B
<p>指標 生徒全員の希望進路が実現できるように指導する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>基礎学力の定着およびそこから繋がる希望進路を実現させるための個々の学習活動の支援を続け、ほとんどの生徒が自己実現のための努力を重ね、一定以上の資格取得も実現できた。進路指導部とも連携しながら、生徒の希望進路先も概ね決定している。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>家庭学習の時間は、平均的にまだまだ十分とは言えない。教科担当教員や保護者と連携した指導により家庭学習の習慣づけが必要である。</p>	